

# 育成だより

第51号

令和4年6月24日

貝塚中学校区

青少年育成委員会

マスクの下の「笑顔」何処！  
貝塚中学校区育成委員会会長 日暮 規夫

令和四年度が始まりました。コロナ禍の中・子供達・先生方も学校生活・運営と大変な事と慮られます。各学校では、体育祭・運動会等が開催され、子供達も元気に躍動し無事終了したとの報を受けました。開催も限定され接する機会が無かったことが残念でした。更に、修学旅行も実施され、通常の活動まで今一歩でしょう。

マスクも感染防止の観点から定着しています。人と人の繋がりや素顔での表現・感情が何よりです。着用により健全な成長にも影響があるとの報告もあります。早期解放により笑顔で仲々した生活・活動になる事を念願したいと思えます。出生率も年々低下しております。子供は、社会の宝と共に未来を拓く大切な人材です。地域一丸となって育成する事が肝要です。

本年は育成委員の委嘱（二年）がありました。感染状況低下傾向にあるもの予断は禁物です。この様な中、活動も自粛せざるを得ない昨今ですが、登下校の交通指導や安全な環境の確保等含め、見守り活動が重要です。

子供達の健全育成に向け、地域の皆様と共に推進したいと思えます。ご理解とご協力をお願いいたします。

貝塚中学校に就任して

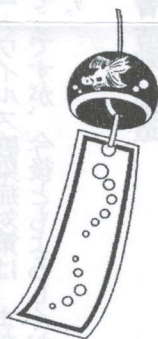
貝塚中学校 校長 山口 鉄也

四月に貝塚中学校第十七代校長として着任いたしました。山口鉄也と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

令和四年度は、二〇四名の新入生を加え全校生徒五九〇名でスタートしました。新型コロナウイルス禍ではありますが、感染症対策を講じながら、保護者会や授業参観、三学年の修学旅行（北陸地方）や体育祭など、ここまで順調に教育活動を展開することができています。

育成委員会の皆様には、日頃より学区の安全や、行事等を通じた青少年の健全育成への尽力、加えて、本校の教育活動に對しまして、ご支援・ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

間もなく、生徒たちが楽しみにしている夏休みを迎えます。学校において休み前の指導は行つて参りますが、地域での見守り等ご支援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。



自己肯定感を高めたい

桜木小学校 校長 古川 健志

令和四年度は、全校児童数六九四名、教職員数三九名で教育活動が始まり、早くも三か月が経とうとしています。

昨年度より、本校では、子どもが自らの在り方を積極的に評価できる感情、自らの存在価値を肯定できる感情を高める取り組みを算数科の学習を通して実践しています。これらの感情が高い人は、自分にも他人も寛容で自分が主体的に活動することも厭わず、何かに失敗しても前向きに考えることができます。本年度の算数の授業では、次の学習につなげる評価や振り返りの工夫に焦点をあて、子どもに「わかった」「できた」を実感させることで、自己肯定感を高めていきたいと考えています。

行事においては、五月の運動発表会が降雨のため、開始を十一時に変更し、表現運動の発表のみとなりました。どの学年も本番当日の演技が一番良いものとなり、保護者の皆様の目を楽しませることができました。また、三年振りに六年生が応援団を組織して、校庭に応援歌やエールの声が響き渡りました。コロナ禍ではありますが、できることを少しずつ増やしていきたいと考えています。

このように、本校の教育活動が推進できるのも、協力的な保護者の皆様や地域の皆様に支えられているからだと思えます。

本年度も子どもたちの健全育成のために、ご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

「チーム北貝塚小」をめざして

北貝塚小学校 校長 大矢 郁乃

令和四年度の教育活動がスタートして三か月を迎えます。今年度の学校教育目標を「かかわりあいの中で自らチャレンジする子 自分大好き 友達大好き 地域大好き」と掲げ、その具現化を目指し全職員、心を一つに取り組んでいるところです。

五月のスポーツフェスティバルでは、全学年出場種目はラフラ体操と徒競走とダンスとし、三学年ごとの二部制でプログラム構成を工夫して行いました。子供たちのゴールまで全力で走り切る姿、自分の思いを全身で表現する姿、準備や運営を支えた五・六年生のがんばりなど全校みんなの力で素晴らしいスポーツフェスティバルをつくり上げることができました。子供たちを勇気づける保護者や地域の皆様の温かな励ましのおかげです。また、五年生は地域の方から「バケツ稲づくり」の土づくりや苗植えを直接指導いただきました。二年生は自分たちの住む地域の魅力を見付ける学区探検に取り組みました。今後も地域の方や地域の学習教材と豊かにかかわりあう活動に取り組んでまいります。「チーム北貝塚小」として、学校・家庭・地域が連携し子供たちと共に育てる教育の実現と子供たちの健全育成のために、育成委員会の皆様のお力添えを賜りますようお願いいたします。



## 今年度の主な事業計画

- ◎育成だより発行（広報部：年間2回）  
 ◎夏休み対策活動（7/16～8/28）  
 ◎デイキャンプ（協力会：8月）  
 ◎青少年相談員日帰りバス旅行（青少年相談員：8月）  
 ◎交通安全指導（福祉・交通安全部：4/6,8/29,1/6）  
 ◎青少年の日・家庭の日（9/17）  
 ◎地域ぐるみ一斉点検パトロール（7/2,12/3）  
 ◎冬休み対策活動（12/24～1/5）  
 ◎書き初め展（健全育成部：2月）  
 ※社会情勢によって実施の可否が変更になります

## これからの貝塚中スタンダード

貝塚中学校 教頭 石塚 直樹

本年度は、生徒数五九〇名十七学級でスタートしました。コロナ禍で色々な制限がある中、どの様にしたら生徒たちが充実した学校生活を取り戻すことができるか、教師、生徒、保護者が一丸となって頑張っています。

四月には分散型による授業参観を実施。五月には三年生が金沢方面へ二泊三日の修学旅行に行ってきました。そして六月には保護者の参観のもと体育祭が開催されました。久しぶりの学校行事でもあり、平日開催にもかかわらずとても多くの保護者の皆さんに参観していただきました。

それぞれの行事の成功は、生徒たちの頑張りが輝いていたのはもちろん、それを支える教師の指導、そして地域の方や保護者の方々のお力添えがあつてこそのものであります。これからも「どうすれば、何が、どの程度できるのか」を生徒たちと保護者・地域の皆様・本校の教職員と知恵を出し合いながら考え、これからの貝塚中スタンダードを構築していきたいと思ひます。

新型コロナウイルス感染症対策は、まだ続きそうですが、今後ともよろしくお願ひします。

## 新たな教育活動の創造

桜木小学校 教頭 小松 司

今年度は、一一六名の新入生を迎え、二十四学級、児童数六九四名でスタートを切りました。素直で活発な子どもたちが、毎日充実した学校生活に取り組んでいます。新年度、世間的には徐々に新型コロナウイルス感染症が落ち着き始めたその頃、本校では感染が収まらず、複数の学級閉鎖を余儀なくされました。その結果、学習参観の中止、学年別の運動発表会等、様々な活動が足踏み状態を続けてきました。

今年度、本校では「新しい桜木小の生活様式」とは何か、模索し続け、教育活動の工夫・精選を通して、新たな取組を目指しています。ICTの効果的な活用、キャリア教育の充実についてもその一つであると捉えています。そして何より、加曽利貝塚をはじめとする恵まれた環境、温かい想いと行動力に溢れる地域の皆様は、桜木小の貴重な財産であり強みです。

その想いに応え、よりよい教育活動が展開できるよう、教職員が一丸となって取り組んでまいります。

今後とも、子どもたちが安心・安全な学校生活を送ることができるよう、育成委員会の皆様には子どもたちの見守り、そしてお力添えをよろしくお願ひいたします。

## 「感謝と未来への志を高めて」

北貝塚小学校 教頭 君島 啓徳

今年度は、昨年度より通常級が一学級、特別支援学級が二学級増え、全三十三学級の児童数八九一名でのスタートとなりました。

した。新型コロナウイルス感染症の影響を受け始めてから三年が経ちますが、感染症に対する配慮と適切な対応を十分に行いながら、子供たちの豊かな学びを止めることなく、一日一日を大切に教育活動の歩みを進めております。

おかげさまで、日々の学習をはじめ、スポーツフェスティバルや学習参観など、学校全体に関わる行事についても、大過なく実施することができました。本校は大規模校であるが故に、無事に終えられたことが決して当たり前ではなく、それには、行事の運営に際し、PTA役員皆様のご協力をはじめ、保護者の皆様や地域の皆様のご理解とご協力があつてからこそと、改めて感謝申し上げる次第です。

本校は昭和四十八年の開校以来、本年創立五〇年を迎えます。本来であれば創立記念式典を挙行するところですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、来年、実施する予定です。今年度は準備の年となりますが、これまでの北貝塚小学校の伝統や歴史をしっかりと心に刻み、学校発展に尽力された地域の皆様や諸先輩方への感謝と未来への志を高めながら、学校・保護者・地域で一体となって準備を進めてまいり所存です。今年度も、子供たちの豊かな学びと健やかな成長のために、引き続き、育成委員会皆様のご協力とご支援をよろしくお願ひいたします。

## 訃報

六月十一日に、育成委員の小出岩男様（千葉市社会福祉協議会桜木地区部会長）がご逝去されました。謹んでお悔やみを申し上げます。

## 編集後記

新型コロナ対応も全国的な転換点が来ました。2年の間世界の社会生活・経済活動が大きく変わり、学業にいたっても多くの負担がかかりました。しかしこの新型コロナ禍により世界的にリモートコミュニケーションが一気に進化しました。ビデオ会議、テレビ電話は一昔前はまだまだ思っていたのが、今では当たり前になりました。ICTリテラシーの向上が必須となった今、ついていくことが少し不安になりました。（前島）

## 令和四年度 育成委員会活動方針

地域住民の青少年問題に対する共通の理解を深め、地域における青少年問題関係機関・団体の相互の連絡調整を図りながら地域ぐるみで青少年の健全育成活動を総合的に推進する。

一 豊かな個性と自立・協調の精神を育て、地域ぐるみで二十一世紀に活躍できる青少年の健全育成を推進する。

二 大人が率先して、マナーやモラルの低下を防止する努力をする。また挨拶の励行や青少年に悪影響を与える薬物乱用等の有害環境を除去し、その浄化に努める。

三 児童・生徒をとりまく危険性についての研修を行い、様々な被害から子どもたちを守る。

四 「朝ごはんをきちんと食べる」家庭教育の充実を図り、子育てにおける家庭教育の重要性の啓発に努める。

五 近所や各地域で気軽に相談できる環境を作り、地域で児童・生徒の安全を守るための取組を積極的に行う。

※ 近年、新型コロナウイルスにおける各種行事の中止や規模縮小があつたが、感染症対策をしっかりとつづけて健全育成活動を推進する。